

# ゆりかご 園だより



4期(1~3月)のわらわ  
表現活動を通して心を育てよう  
卒園・進級を期待しよう 2025・2・1

私事で恐縮ですが、先日の運営協議会ニュースでお知らせしたように、3月末で退職することになりました。皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

23年前、園長職を受けるにあたり、「園だよりを書く自信がない、荷が重すぎる」と、前園長に不安な胸の内を伝えました。

保育士時代、子どものことばや様子を書き留めることが好きで、書いたメモは一年でダンボール箱にはなりました。そのメモを基にクラスやグループのおたよりに書くことは苦ではなく、むしろ楽しかったのですが、多くの方が目にする園だよりとなると話は違います。

すると、「あなたは書かなくていい。職員が回り番で書けばいいのですから」と…。そう言ってもらえたので、ずい分気が楽になりました。

ところが、いざ園長に就任すると「私たちはそんな話聞いていない。園だよりはこれまで通り園長が書くべきでしょう」と…。以来年に12回、計275回書きました。

そんな中で私にとって大切にしているエピソードを載せた2015年9月の園だよりを紹介します。

ずい分昔になりますが、当時3歳の女の子が「やさしい」ということばをよく口にしていた時期がありました。「やさしい」ということばを賞えたばかりで、使ってみたいのかよと思っていたのですが、どうも違うようです。

ある日、散歩に出かけるのに靴が濡れていて履くものがなかった友だちに、2足あったその子は担任に足され、自分の靴を貸してあげたのです。そして「Aやさしいかい?」と確かめるように私の顔を見て言ったのです。私はこの時、Aちゃんは決してやさしさの押し売りをしているのではなく、行為に「やさしい」ということばを結びつけ、こういうことが「やさしい」ことなのかと、大人のカを借りながら、自分の中で「やさしさの概念」を育てているのではと思いました。色でいうと、白や黒ははきりしていますが、グレーを表現するのはとても難しいです。私は白や黒の部分をはきりさせるのではなく、いろんなグレーがある、グレーの部分を豊かにするような保育をしたいと思、たのでした。

子どもの発することばにどんな思いが込められているか、またことばにならぬ思いにも心を寄せられているか、Aちゃんの「やさしい」ということばから、自分の保育観を考えさせられたのでした。

改めて古い園だよりを見返してみると、気恥ずかしくなりますが、「子どもから学ぶ」という姿勢を大切にしてきました。ともすれば見逃してしまい、そうは、目には見えない子どもの成長を感じられる大人で、これからもいたいと思います。